

## 地域におけるスポーツイベントの事例研究（2）

—サザン・セット大島少年サッカー大会がもたらした効果と課題—

幸田三広\*、菱山士朗\*\*、藤岩秀樹\*\*\*、折本浩一\*\*\*\*、平松 携\*\*\*\*\*、平畑幸作\*

### The Case Study of the Sport Event in the Community (2)

— The Effect and Subject Given by the Southern Seto Oshima Junior Soccer Meeting. —

Mitsuhiro KOTA, Shiro HISHIYAMA, Hideki FUJIIWA,  
Koichi ORIMOTO, Sugaru HIRAMATSU and Kosaku HIRAHATA

#### Abstract

In the case study (1), I analyzed the process and the present condition of the meeting. In this paper, I clarify the effect and problems given to the community by the Southern Seto Oshima Junior Soccer Meeting and examine what the meeting should be in the future. In conclusion, as reaching effect, the foundation of soccer, such as formation of soccer team, establishment of soccer society and holding of Futsal meeting, was constructed. It is the future problem that we should have volunteer group that supports of the meeting.

Key words: Community, Sport event, Soccer meeting, Effect, Subject

#### 1. はじめに

近年、わが国の平均寿命は急速に延び、今日では世界一の長寿国となっている。人口の都市部集中と少子化の影響から地方では過疎化が進行し、それに伴い地方自治体では地域の活性化を図るために各種イベントが盛んに催されるようになった。

山口県東南部の瀬戸内海に位置する大島郡（大島町、久賀町、橘町、東和町）は、高齢化、少子化、過疎化が進行する典型的な地域である。そんな過疎の島で開催されるスポーツイベントの一つが「サザン・セット大島少年サッカー大会」（以下「サザン・セット大会」と略称）である。

2001（平成13）年3月、サザン・セット大会は、ひとつの節目となる第5回大会を終えた。会場施設の整備充実といったハード面では回を重ねるにつれ改善されてきたが、大会の大きな目的でもある地域の活性化という点では、経済的な効果は確認できるものの大島郡に暮らす地域住民への活性効果をはっきりと見る事ができない。

事例研究（1）においては、サザン・セット大会が開催されるに至った経緯と大会の現状について明らか

にしたが、ここでは、この大会がもたらした効果や課題について明らかにし、今後の地域におけるスポーツイベントのあり方についての示唆を得ることを目的とした。



写真1. 第5回大会ポスター

## 2. 研究の方法

本研究における主な調査対象地は、サザン・セト大会を開催する山口県大島郡内4町(大島町、久賀町、橘町、東和町)である。

調査は、関係諸機関からの資(史)料と文献の収集、開催地住民やサッカー関係者、行政関係者を対象とした面接調査、ならびに質問紙調査などを総合的に実施した。

なお、大島郡内で開催された「第3回大島郡フットサル大会」(2000年11月)では、「大島郡におけるスポーツイベントについてのアンケート調査」を実施し、広く参加者からの地域振興に関する意見を募った。

各調査の詳細は、下記の通りである。

### 2.1 大島郡および、サザン・セト大会に関する調査(2000年3月、9月、11月に実施)

#### 1) 資(史)料、文献の収集

大島郡、サザン・セト大会の全体像を把握するための資(史)料、文献の収集

#### 2) サザン・セト大会の参与観察

##### ①大会参加者の様子

##### ②大会運営形態の把握、参加者の状況の確認

#### 3) 面接調査法による大会全体、成果と課題に関する聞き取り(なお、聞き取りの際に、MDプレーヤーを用いて回答の録音を行なった)

##### ①大会関係者に対する面接調査

- ・大会の概要、現状、問題点について
- ・大島郡内のサッカー事情について

##### ②開催地のビジネス経営者に対する面接調査

- ・大会開催時の経済効果、地域活性化について
- ・大会の印象について

##### ③開催地住民に対する面接調査

- ・大会の参加、印象、活動内容について
- ・大会運営の関与について

##### ④大会会長、町長に対する面接調査

- ・大島郡におけるスポーツイベントについて
- ・高齢化社会における福祉事業について

### 2.2 大島郡におけるスポーツイベントについての意識調査(2000年11月に実施)

#### 1) 調査対象

山口県大島郡東和町において開催された「第3回大島郡フットサル大会」の選手および保護者、来場者などを対象。

#### 2) 調査時期

2000年(平成12年)11月12日

#### 3) 調査内容

以下の調査内容について選択肢、自由記述のアンケート用紙を作成した。

- ①大会参加(観戦)者の基本的属性について
- ②大島郡フットサル大会の参加理由と大会のまちづくり貢献度について
- ③サザン・セト大会の認知度と大会のまちづくり貢献度について
- ④地域におけるスポーツイベントの必要性について
- ⑤その他、意見、感想など

#### 4) 配布数及び回収率

本調査におけるアンケート配布数は246であった。うち回収が可能であったものは130、回収率は52.8%となった。

なお、本研究では、この130名すべてを分析の対象として扱ったが、各質問項目における誤回答などは、その項目毎に除外して分析を行った。

#### 5) 分析方法

得られた回答については、各項目での単純集計による分析を行った。



写真2. 開会式の様子(東和町会場)

## 3. 結果の概要

### 3.1 大会がもたらした主な効果

#### 3.1.1 経済効果

サザン・セト大会の開催地である山口県大島郡において、地域住民に聞き取り調査を実施した結果、大会の開催によって直接的な効果を得ていたのが商店などの経営者であった。特に、大会参加者の宿泊を賄う旅館業に関してはこの時期、一般の観光客や宿泊客がほとんど望めないため、大会の開催を多大に評価していた。また、飲食店においても弁当の注文などで普段よりも売上が上昇している趣旨の回答が多々得られた。このことについては、主催者側が掲げた大会開催の趣旨のひとつである経済効果として確認できた。

### 3.1.2 地元サッカー少年団保護者の反応

地元サッカー少年団の保護者たちは、大会期間中に島に活気が出ること、子どもの生き生きとした姿を見ながら家族ぐるみのコミュニケーションがとれること、普段同年代の子どもが少ない環境にいる大島の子どもがサッカーを通して全国の子どもたちと触れ合えるなど、サザン・セット大会を“交流の場”として評価していることを確認した。また、他地域に遠征しなくても全国各地のチームと対戦できる（費用がかからない）ことを評価する声も多かった。



写真3. 試合の様子（東和町FC 対 清水FC）

### 3.1.3 まちづくりと活性化の効果

大島郡フットサル大会の参加者および観戦者を対象に実施した「大島郡におけるスポーツイベントについてのアンケート調査」の結果では、「サザン・セット大会が、大島郡のまちづくりや活性化に貢献している」と回答（「とても思う」または「思う」と回答）した者は 70.4%となり、「どちらともいえない」の 23.8%、「思わない（全く思わない）」の 5.8%を大きく上回った。（表1.）

このことから、まちづくりの貢献度という点に関しては、開催から5年が経過した現段階において、地域住民から一定の評価を得ていることが推測された。さらに、「大会がまちづくりや活性化に貢献していると思う」と回答するに至った理由についてみると、「郡外、県外からの参加があるから」、「他地域との交流」、「大島の好感度が上がり、PRになる」、「大島郡の経済効果」などの理由が挙げられており、主催者側が掲げた大会開催の趣旨と一致する意見が存在していた。

一方、「サザン・セット大会が今後、地域に根付いていくような活動に発展していくか」について問うと、発展していくと「思う（とても思う）」と回答した者は 62.3%となり、前述の貢献度に関する問いの 70.4%を若干下回っていた。（表1.）

また、「思う」と回答するに至った理由についてみ

ると、「大島のサッカー人口が増えてきている」、「参加チームが増えてきている」、など、郡内でのサッカー人気に関するものが多かった。他には「毎年開催されている」、「全国から参加がある」、「交流ができる」という回答があり、ここでもスポーツイベントを通しての“交流”が重要な要素になっていることがうかがえた。

表1. 「サザン・セット大島少年サッカー大会」の

効果についてのアンケート結果(n=122) 人(%)

	とても 思う	思う	どちらとも 言えない	思わ ない	全く思 わない
まちづくり や活性化に 貢献	35(28.6)	51(41.8)	29(23.8)	4(3.3)	3(2.5)
地域に根付 くような活 動に発展	27(22.1)	49(40.2)	38(31.1)	4(3.3)	4(3.3)

### 3.1.4 一般サッカーチームの結成

第1回サザン・セット大会（1997年3月）の開催準備にともない、1995（平成7）年、大島郡4町の中で一番遅れをとっていた東和町に少年サッカーチームが結成され、ようやく4町に少年サッカーチームが出揃うと、当時、大島郡のサッカー振興とサザン・セット大会の準備に向けて東和町に赴任していた体育業務援助員らが中心となって中学生から大人までの約30人を集め、「オーバーオールキッカーズ」という一般のサッカーチームが結成されるなど、大島郡内でもサッカー活動が盛んになり始めた。

郡内ではかつてから少年サッカーをしている地区はわずかながらあったものの、一般を対象にしたサッカーチームは存在しなかった。加えて、学校の部活動では大島商船高専にひとつあるだけで、多くは中学に進学すると同時にサッカーを続けられない状況にあったため、オーバーオールキッカーズ結成は中学生のサッカー離れを防ぐひとつのきっかけにもなった。後に女子部も結成され、老若男女を問わず活動していることから、大島郡のサッカー普及のカギを握る重要な組織と言えるだろう。チームでは中学生と社会人との世代を越えた交流が生まれ、さらにメンバーが郡内少年サッカーチームの指導に当たるようになるなど、サッカーの普及や振興といった面でもチームの存在価値は大きい。これもまた、サザン・セット大会の開催による効果として捉えられるだろう。

### 3.1.5 大島郡サッカー協会の設立

オーバーオールキッカーズのメンバーが中心となって1998(平成10)年4月に「大島郡サッカー協会」が設立され、徐々にサッカーの土壌が構築されてきた。そもそも、サッカー協会のない地域において全国規模の少年サッカー大会を開催することは困難であり、主催者である行政関係者の中でもその必要性が問われていた。そして、設立から2年後の第3回大会より主管として大島郡サッカー協会は大会を支える組織へと事業を広めていった。

大島郡サッカー協会の規約を見ると、第3条「目的」に「本会はサッカー競技を通じて、スポーツ精神の高揚、体力および競技の向上、ならびに郡民相互の交流親睦を図るとともに、普及振興を目的とする」とあり、第4条「事業」については、「本会は、前条の目的を達成するために以下の事業を行う。①競技に関する審議。②協議会の開催。③審判講習会、指導者講習会の開催。④関係体育諸機関との連携。⑤その他協会の目的を達成するために必要な事項」とある。協会の理事長(2001年当時)は、「サザン・セット大会に対して郡内のサッカー関係者として、何か運営の協力をするのにこのような組織がないと個人ではなかなか協力できない。」と述べている。これは、大島郡にサッカーを普及させるためにも協会組織があると動きやすいということであろう。

また、引率指導者の負担となっている<sup>4)</sup>相互審判制の緩和のための処置として、事業の「③審判講習会、指導者講習会の開催」が今後の大会の方向性に重要な役割を果たすと期待され、協会理事長は、「大会の運営に協力できることと言ったら審判員の派遣くらいのもの」として、地域住民の中から審判の育成に励み、現在では3級、4級の審判講習会が半年に1回のペースで開かれている。

### 3.1.6 大島郡フットサル大会の開催

行政主導のもとでサザン・セット大会が開催され、大島郡サッカー協会とオーバーオールキッカーズが歩み始め、サッカー人気が高まっていく一方で、大島郡は止まらない過疎化、少子・高齢化の影響を受け、サッカー活動の形骸化を余儀なくされているのもまた事実である。サッカー人気が表面化する以前から他の種目のスポーツ団体でも、チームの存続すら困難な地区もあり、別の地区との合同で活動するというチームもあった。

このような背景のもと、大島郡のサッカー活動の中で新しい展開が見られるようになった。第1回サザン・セット大会の開催から約1年半後の1998(平成10)年9月に大島郡サッカー協会の主催で「第1回

大島郡フットサル大会」(以下、「フットサル大会」と略称)が開催された。このフットサル大会は、東和町の総合体育館を会場に、小学校低学年の部、高学年の部、一般の部(中学生以上)の3部で構成され、子どもから大人まで誰でも参加できる大会となっている。郡外の山口県本土や広島県からの参加もあり、合計25チームの参加枠で年1回開催され、2001年11月に第3回大会を終えている。

フットサル大会の発起人の1人は、「郡内はどのチームも11人集めるのは困難だが、サッカーブームでどうしてもサッカーをやりたい。フットサルの5人ならどこのチームでも集まるだろうし、大人も子どもも気軽にできる」と、開催に至る理由を述べた。

少人数でも気軽に参加できるスタイルのフットサル大会はまさに、少子・高齢化の進む大島郡にとってはうってつけのスポーツイベントであるといえる。また、すでに大島郡サッカー協会も存在していたこともあり、行政機関にイベント運営を依頼することなく、オーバーオールキッカーズのメンバーを中心とした地域住民による運営で小規模ながらも開催された。これは地域主導でスポーツイベントの運営が可能であるというように捉えられ、この運営スタイルを今後のサザン・セット大会にも反映させていきたい点である。そうすることでスポーツイベントが地域により一層根付き、ボランティアスタッフなどによる地域主導型の運営に近づいていくのではないだろうか。

## 3.2 今後の課題と展望

### 3.2.1 サザン・セット大会の満足度から

第5回大会を終えた現時点で大会参加者の満足度は非常に高いものであった<sup>4)</sup>。しかしながら、大会運営面での改善点も指摘されている。

まず開催日が3月28・29・30日で毎年固定されていたため、第4回大会が3日間すべて平日の開催となったことで参加者に不満があらわれた<sup>4)</sup>。この問題に関しては休日を優先にした開催日に変更し対応をはかるべきである。翌第5回大会には曜日を優先し、週末を含む開催日に変更されている。

次に、第2回大会より導入された相互審判制は引率指導者の負担を増大させる結果となり、参加者へのサービス低下と参加意欲の低下を引き起こす結果となった<sup>4)</sup>。第1回大会では主催者側ですべて審判員を準備したが、大会経費の削減とスタッフ不足により参加チームに主審の帯同を義務付けるようになった。大島郡サッカー協会ではこの現状に対する措置として、大会審判員を地域住民で賄えるように審判講習会を開き対応を図っていることは先述の通り

である。しかしながら、近郊高校サッカー部などの協力を得て現在も審判員の確保はしているもののすべての審判員を賄うことは未だ出来ず、主審の相互審判制は今も課題として残っているのが現状である。

### 3.2.2 ボランティアスタッフの確保

第5回大会を終えたサザン・セト大会の大会事務局で運営上の課題について聞き取りを行った結果、まずボランティアとして運営を支えるスタッフの必要性を強調していた。地元住民がボランティアとして運営に参入すれば、大会がより一層地域に根付いたものへと発展していくことは明確である。

また、先述のアンケートでサザン・セト大会が毎年3月に大島郡内で開催されていることを知っているか問うたところ、地元大島の開催にもかかわらず「知っている」と回答した者が67.2%と予想に反して認知度はあまり高くなかった。

行政主導による大会運営がこのような結果を招いているのか否かは现阶段では断言できないが、地元大島からボランティアスタッフを多く確保することや、大会についての広報活動を工夫することによって、地域住民の大会の認知度は上がってくるものと考えられる。



写真4. ボランティアの様子 (東和町会場)

## 4. まとめ

本研究では、過疎、少子・高齢化の進む山口県大島郡で開催されているサザン・セト大会を取り上げ、2001年3月で開催から5年が経過した段階で、大会がもたらした効果や課題について、地域住民の評価や証言をもとに検討した。

調査の結果、以下の事柄を明らかにすることができた。

1) 郡外からの参加者が4日間に渡り大島に滞在するサザン・セト大会は、地元大島郡の地域振興や経済の活性化のための手段として位置付けられており地

域住民からも大会の開催は大きく評価されていた。

2) サザン・セト大会が行政主導による運営で毎年開催されることにより、少年サッカー活動が活発になり「大島郡サッカー協会」の設立や一般を対象にしたサッカーチーム「オーバーオールキッカーズ」が結成されるなど、郡内にサッカーの土壌が徐々に構築されてきた。過疎、少子・高齢化が著しく進み、サッカーを楽しむ人がほとんどいなかった地域においてサッカーがこれだけ地域に広がりを見せたことは、スポーツ振興という点で大きな効果があったと言える。

3) 大島郡内でサッカーが根付き始め、人気が高まる一方で過疎、少子・高齢化問題は避けられず、サッカー活動の形骸化を余儀なくされていた。しかしその問題を解消するべく、行政に頼らない地域住民による運営で「大島郡フットサル大会」が開催されるようになった。

4) 地域住民はサザン・セト大会の開催を評価しつつ、そのあり方とは異なるフットサル大会を「交流の場」として存在させようとしていた。そこでは多数の参加者の家族などが応援に駆けつけ、家族ぐるみの幅広い交流があることから、サッカーがファミリースポーツと位置付けられていると見受けられた。

5) 地域住民の若い年代においては、サザン・セト大会の運営は行政に頼りつつも、ボランティアとして協力していこうとする意識が少しずつ芽生え始めてきた。しかし、大島郡が総体として抱えている少子・高齢化と過疎の問題から島内に留まる若者は少ない。わずかに残った者は指導者としてチームに帯同しており、大会へのボランティア参加は現実として困難な状況であった。

6) 今後のサザン・セト大会のあり方として、行政の強力なバックアップによるスポーツ振興施策をもとに、地域住民のスポーツに対する意識の高揚を図りながら、行政・地域住民が一体となってスポーツイベントを作り上げていくことが望まれる。つまり、サザン・セト大会にフットサル大会のような住民による運営の力を取り入れるなど、両大会の取り組みの成果を交え、行政と住民が一体となってスポーツイベントを作り上げていく協力関係の構築が必要であると考えられる。

本研究の一部は日本体育学会第52回大会(2001.9)において発表した。

## 文献

- [1] 山口泰雄:地域社会の活性化とスポーツクラブ、スポーツと健康 30 (12)、1998.
- [2] 山口泰雄:スポーツイベントの現状と参加者の視点、みんなのスポーツ 153、1992.
- [3] 北村、川西ら:生涯スポーツイベント参加者の大会満足度—菜の花マラソン参加者のスポーツライフスタイルによる比較—、鹿屋体育大学研究紀要、第22号、2000.
- [4] 折本、幸田、谷岡、田口、富永:生涯スポーツ時代におけるスポーツ指導者の意識—少年サッカー大会のあり方を中心に—、広島体育学研究、第26巻、2000.
- [5] 野川、菊池、山口、長ヶ原:スポーツイベントのマネジメントに関する研究(1)—イベント参加者の視点から—、鹿屋体育大学研究紀要、第6号、1991.
- [6] 菊池、野川、山口、長ヶ原:スポーツイベントのマネジメントに関する研究(3)—地域活性化の視点から—、鹿屋体育大学研究紀要、第6号、1991.
- [7] 萩、野川、柳、國本:生涯スポーツイベントのマネジメントに関する研究(1)—県レベルイベントの運営評価—、鹿屋体育大学研究紀要、第10号、1993.
- [8] 野川、萩、國本、松本:生涯スポーツイベントのマネジメントに関する研究(2)—イベントの運営評価と継続意欲の関連について—、鹿屋体育大学研究紀要、第10号、1993.
- [9] サザン・セト大島少年サッカー大会事務局:サザン・セト大島少年サッカー大会準備委員会議事録及び会議資料、1997.
- [10] 周防大島高齢者モデル居住圏構想推進協議会事務局編:周防大島ガイドブック、2000.
- [11] 佐野眞一:大往生の島、文藝春秋、1997.
- [12] 清水カップ全国少年草サッカー大会 10周年記念誌編集委員会編:清水カップ全国少年草サッカー大会 10周年記念誌、1997.
- [13] 保健体育審議会(答申):生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について、1997.